

## 2026年度茨城大学模擬授業：農学部

授業科目名	授業概要	分類番号	担当教員	模擬授業タイトル	キーワード	オンライン対応 (可の場合)	50～60分前後授業対応可	SDGs 該当番号	模擬授業可能曜日時間帯
食生命科学科 食品の科学	私たちの生命維持に欠かせない「食」について、食資源としての農畜産物の利用、加工・保蔵・流通・衛生など食の安全性、食品成分の機能など、様々なキーワードに焦点をあて、わかりやすく解説します。	A1	上妻由章	酵素と機能性食品の話	食品機能・酵素	○	○	3	曜日は応相談 午後
		A2	鈴木穂高	身近な食中毒／フグ毒の話（どちらか）	食中毒菌・魚貝毒	△応相談	○	2,3,12,14	応相談（火曜日以外）
		A3	長南茂	微生物と酵素のはなし	微生物・酵素	○	○	3	水 午後
		A4	豊田淳	脳とこころの健康を維持する食	食・脳の健康	○	○	3	月、午前
		A5	中村彰宏	食品加工における食品機能素材の役割と品質評価	食品の物性・加工	○	○	3	前期：月、金午後 後期：金午後
		A6	宮口右二	食肉製品の品質向上・未利用食資源の有効活用	畜産物・未利用資源	○	○	2,3,14	月、午前
		A7	鎗田孝	食品の安全を見守る“食品分析”	食の安全・食品の化学分析	△応相談	○	3,9,12	曜日は応相談 午後
食生命科学科 バイオサイエンス入門	人類の生存は様々な生物の生命活動によって支えられています。この授業では、動物・植物・微生物による生命現象の科学やそれを応用した技術について、授業担当者の専門に関連した内容をわかりやすく紹介します。	A8	朝山宗彦	藻のヒミツ教えます！ 藻の探索・遺伝子・有用物質生産開発	飲食品、化粧品、医薬品、燃料生産	○	○	3,7,9,13	月木の午後
		A9	上塚浩司	動物との共生と生物多様性	動物の健康、生物多様性	○	○	14, 15	要相談
		A10	小島俊雄	植物の環境応答－化学と生物学の視点から－	生命の化学、大学で学ぶ生化学	○	○	15	応相談
		A11	戸嶋浩明	天然毒から農薬・医薬の開発へ	生物毒の利用、化学合成と薬	○	○	2,3,9,12	木 午後
		A12	中平洋一	植物バイオでつくる「食べるワクチン」	植物バイオ、遺伝子組換え	○	○	2, 3, 9, 14	月、水 午後
		A13	成澤才彦	微生物が花を咲かせる！？	農業を救う菌、共生	○	○	1,2,8,13,15	月、火、金の午後
		A14	西澤智康	微生物と気候変動	土壌微生物生態、微生物代謝機能、物質循環	○	○	2, 7, 13, 15	後学期 火・木 午後
		A15	西原宏史	低炭素社会に貢献する水素細菌	微生物と水素	○	○	7, 9	木 午後
		A16	長谷川守文	植物の自己防御物質の化学	有機化学、植物、植物病原菌、抗菌性物質	○	○	2,9,15	前期：月木 後期：火金 (それ以外の曜日にも応相談)
		A17	安江健	家畜の行動を活用する－歴史的意義と現代的再構築	動物の行動とその利用	○	○	2, 3, 15	後期の火金午前中以外は応相談で可能
		A18	小針大助	ヒトと動物の関係を考える	アニマルウェルフェア・人と動物の関係	○	○	2,3,12,13	午後
		A19	吉田悠太	味覚の科学	嗜好性、生活習慣病、バイオセンサー	○	○	2,3,9	通年可、要相談

## 2026年度茨城大学模擬授業：農学部

授業科目名	授業概要	分類番号	担当教員	模擬授業タイトル	キーワード	オンライン対応 (可の場合)	50～60分前後授業対応可	SDG s 該当番号	模擬授業可能曜日時間帯
地域総合農学科 作物生産の科学	作物生産は、人が植物の力を借りて太陽エネルギーを食糧として収穫する営みです。農業科学では、高品質で安全な作物を持続的に生産し利用するために、植物やその栽培環境について研究することで様々な技術が開発されています。これらの素晴らしい技術の一端を最新のトピックスを交えて平易な言葉で紹介いたします。	A20	井上栄一	植物の開花生理と作物栽培の関係	生殖成長、栄養成長、開花ホルモン、フロリゲン	○	○	2,9,13,15	応相談
		A21	菊田真吾	農作物生産を支える農業の役割	農業の今昔と未来	○	○	2,9,12,13,15	応相談
		A22	北嶋康樹	食品への異物混入対策としての害虫管理	食品害虫、異物混入、食品工場	○	○	2, 12, 15	応相談（火曜不可）
		A23	久保山勉	植物の遺伝資源と育種	植物の遺伝資源と育種	○	○	2,9,13,15	応相談
		A24	佐藤達雄	植物の免疫システムの仕組みと免疫活性化技術	植物免疫	○	○	2,9,13,15	応相談
		A25	迫田翠	作物生産現場から考える気候変動	水田、物質循環、持続可能性、適応と緩和	○	○	2, 13, 15	火、木、金の午後
		A26	七々小百合	作物生産を支える土壌と肥料	土壌、肥料、植物栄養	△応相談	○	2,9,13,15	応相談
		A27	中島雅己	環境にやさしい植物病害の防除	農業と植物の病気	○	○	2,9,14,15	応相談
		A28	古谷綾子	植物病原細菌と遺伝子工学	植物病原細菌、バイオテクノロジー	○	○	2,9,14,15	応相談
		A29	望月佑哉	野菜の収量とおいしさ	収量、品質、鮮度保持	○	○	2, 3, 9, 13	応相談
地域総合農学科 地域との共生を考える	生命を育む基盤である農村地域や農地、水、地域環境の保全と再生、防災・減災や、さらには地域の問題の解決について、その理論と実践の一端を、各教員がそれぞれの専門の見地から平易な言葉で紹介いたします。	A30	伊丹一浩	フランス・アルプスの農業と地域の歴史	フランス・アルプスの農業と地域の歴史	○	○	15	応相談
		A31	内田晋	エネルギー産業としての農業	農業とエネルギー	○	○	2,7,9,15	応相談
		A32	小松崎将一	フィールドで学ぶ有機農業	フィールドで学ぶ有機農業	○	○	2,13,15	応相談
		A33	長澤淳	データで見る世界農業	データベース、農業、経済	○	○		応相談
		A34	前田滋哉	農業水利施設と水環境の保全	農業の多面的機能、持続可能性、生物多様性保全	○	○	3, 14, 15	応相談
		A35	牧山正男	環境にやさしい水田 環境にきびしい水田	水田農業と環境との関わり	×	○	7, 13, 15	応相談
		A36	楊 汝楠	日本と中国の都市農業	都市農業、消費者、マーケティング	○	○	8, 11, 15	通年可、応相談（水曜不可）
		A37	林 暁嵐	農耕地からの温室効果ガスを考える	畑地、物質循環、窒素、持続可能	○	○	2, 13, 15	応相談